

令和6年度 土浦市防災まちづくりセミナー

第一部

地域の安全・安心を実現するためのまちづくり

地域防災の新たな取り組みについて

主催：土浦市まちづくり市民会議安全部

後援：NPO法人茨城県防災士会

地域防災(自主防災)の背景

- ★ 1971年にアメリカのロサンゼルスで発生した地震の教訓をきっかけに日本は大都市を中心に設立した。

当時は都市部における行政の救援活動に対する協力が主たる活動で組織形態は町内会を中心としたものであった。

今日では組織形態は変わらないが組織の目的は災害全般の対応に拡大し、活動内容も災害予防の観点も取り入れた活動となった。

地域防災力を向上させる特効薬はない

地域の防災を考えるとき・・・

何を守ろうとしているのか。「生活」・「人」
専門家が「答え」を出しているわけではない。
地域の人たちが「考えて答え」をひねり出すしかない。

地域の特性から災害リスクを予測評価したうえで被害の軽減
対策を事前にとることによって軽減できる。

行政任せ、専門家任せはダメ

今の社会は・・・生活様式や価値観が多様化してきた

- ★ 隣近所に誰が住んでいるのかわからない。
- ★ 挨拶もしない。
- ★ 家族構成も知らない。
- ★ 町会行事に参加しない、無関心

地域防災力の根底となるものは・・・

住民同士の繋がりが大切である。(コミュニケーション)

- ★ 連帯感、共同意識 (近所付き合い)
- ★ 思いやりのある心 (助け合い)

防災リーダーの力

- ★ 個別的な活動能力・指示能力が必要であること。
- ★ 災害現場は教えてくれる人がいない、質問する相手もいない、今なにをしなければいけないのか自分で判断しなければならない。

多様な人間社会での防災リーダーの心理

わがままな要求に 偉そうな口の利き方に 自分勝手な態度に
カチン イラッ ムカツ

怒りの火種あっちこちにくすぶっている世の中

- ★ 怒りは表現や場所、タイミングを間違えると、人を傷つけたり、時間をかけて築いたものを一瞬に壊してしまう。
怒りのパワーをモチベーションアップの原動力にする。

超高齢時代の防災対応

防災と福祉が融合する取り組み

- ★ 対象者(相手)が「必要」と思うことと、提供者が「必要」と思うことがずれると・・・コミュニケーションは成立しない。
- ★ 地域に求められる対応とは・・・「安全」・「安心」である。安全とは「防災」を意味し、安心とは「福祉」を意味する。
- ★ 一人ひとりが大切にされる地域は災害時も安心できる地域である。

日本の防災に関する基本的な考え方

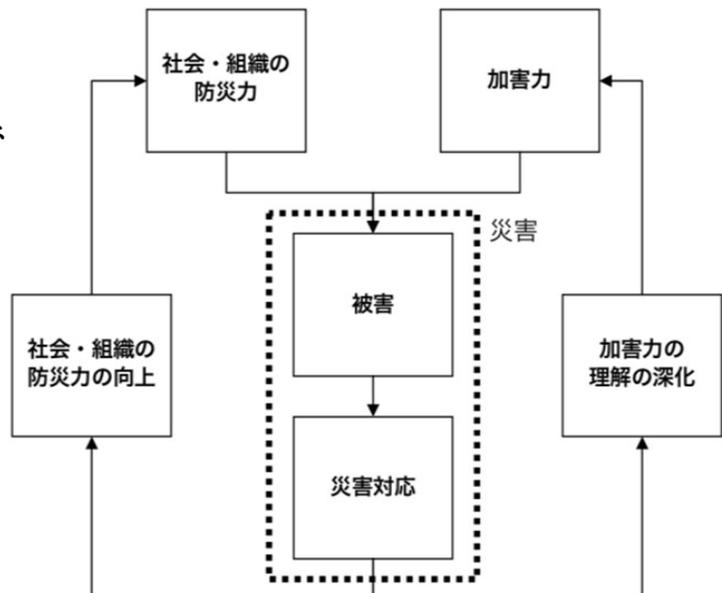
- ★ 予測力・・・災害に対する知識
- ★ 予防力・・・災害被害を最小限にする対策
- ★ 対応力・・・災害から命を守る・生活を再建する。

地域防災の取組みのながれ・・・段階的なステップ

必要なことからやる。 ➡ やれることからやる。

- 1 必要な取り組みを調べる。 ... 調べる。
- 2 災害被害を知る ... 備える。
- 3 多様な分野と連携する ... 広める。

防災力を考える上で
6つの基本要素



「防災」は、「マス」から「個」へ変わり始めた・・・。

近年はメディアが発達し、情報伝達手段が多様化しても
災害情報が全く到達していない市民や心身の事情から
避難行動に容易でない市民も多い。

◎ 災害対策基本法改正 (令和3年5月) → 避難行動要支援者
(個別避難計画の作成努力義務)

地域全体の市民に対して避難情報 → 個別市民ごとに避難情報
地域コミュニティによる自主防災活動の活性化により個々の情報
伝達と避難支援に変わり始めた。

備蓄食糧について

災害時の備えに「食糧と水」は最も重要である。

備蓄食糧の3種類

- ★ 公助の「現物備蓄」 ・ 「流通備蓄」
- ★ 自助の「家庭備蓄」

災害初動期は「家庭備蓄」が有効である。

公助の「現物備蓄食糧」は
1人当たり1日0.3食分



※ 3人で1食分しかない。

自治体は現物備蓄を保有するのにコストがかかり無理がある。

(例) 1人1食当たり 500円 (乾パン・缶詰・飲料水)

1日3食 = 1500円 3日分で4500円

市民は家庭備蓄の必要性を知らながら備蓄食糧に対する意識が乏しく備蓄が進んでいない。

食糧備蓄している人は10人に対して4人 約半数にも満たない。

熊本地震の食糧不足 (2016年4月)

14日前震 避難者 44,449人

16日本震 避難者 183,882人

人口の3割が避難所に収容されると物資調達が不可能となる

教訓

～各家庭の役割分担を明確化～

コツコツ蓄える備蓄・ローリングストックの推進

非常食を日常の食事に取り入れ、必要な量と自分の好みを組み合わせた備蓄。

大規模災害時の食糧(物資)調達のひっ迫性について

首都直下型地震発生時の食糧・物資調達輸送支援は？
(1都5県の人口)

東京	・・・	1.400万人
神奈川	・・・	923万人
埼玉	・・・	730万人
千葉	・・・	630万人
茨城	・・・	286万人
山梨	・・・	94万人

国の計画では災害時の食糧・
物資の輸送計画はあるものの

◎ 調達先はどこから・・・？

高度な情報社会のなかで災害情報の伝達の在り方

防災行政無線による災害伝達は技術的に不十分である



自治体が発信する災害・避難情報の伝達



携帯、スマホ等のアプリに防災情報が入手できるインストールの設定
販売店等は機種変更、新規契約時には必要である

おわりに・・・

地域の高齢者支援の課題

施設で暮らす高齢者ばかりではない。地域で一人暮らしをしている高齢者が増えている。いざという時にどのように支えるかが課題になっている。

阪神・淡路大震災が起きた1995年に717万人だった75歳以上の人口は3625万人と5.4倍に増えている。一方で15歳から64歳の人口はこの間に1300万人以上減った。

2019年10月台風19号では東日本で河川の氾濫が多数発生し死者の65%が高齢者、2020年7月の九州豪雨では80%に上がった。

支える側の力が弱まり、災害に対して脆弱な社会になっている。

● 資料作成者

NPO法人茨城県防災士会

防災士 横山 松夫

(一社)暮らしを守る防火・防災アドバイザー

● 参考資料

- ・ 地域の安全・安心に関する指針(福祉防災)
- ・ 国土交通白書(2024)
- ・ 都民防災指導要綱(東京消防庁監修)
- ・ 災害対策基本計画改正(個別避難計画作成手引き)
- ・ 日本災害食学会誌論文
- ・ 熊本地震の避難所における食糧状況の検証報告
- ・ 都道府県別(市区町村別)現物備蓄の現況
- ・ 大規模災害時の物資調達輸送計画システム(内閣府)
- ・ 日本応用地質学会研究論文(地盤災害・気象災害)

第二部

令和6年度 防災セミナー

地域住民としての災害対策

座長 :NPO法人茨城県防災士会
防災士 鶴長 文正

各町内の防災倉庫には、何が入っているの？ という疑問から・・・



土浦市三行政区の防災倉庫を見せたいいただきました。

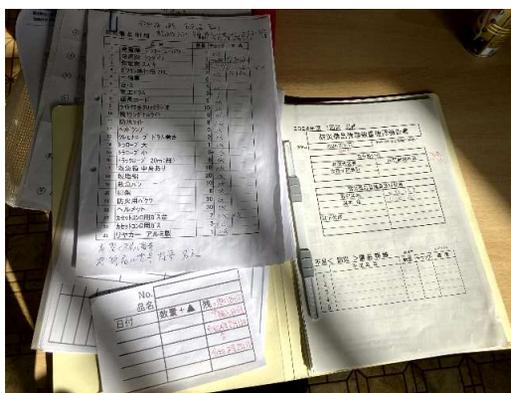
(1) 若松町会公民館防災倉庫見学 ①



防災倉庫の外観

(人口約1,000人 約500世帯)
公民館には広場があり桜の樹木が周りに植えられていて春にはきれいに咲き誇るであろうと思われる。
その一角に防災倉庫があり見学させていただいた。

(1) 若松町会公民館防災倉庫見学 ②



備品管理簿

防災倉庫の備品を台帳に記録して購入した日付を記入し、期限がきたものは廃棄処理し新規に購入しているとのことであった。

(1)若松町会公民館防災倉庫見学 ③



発電機、一輪車、カセットコンロ、飲料水、ライト、電池、ブルーシート、救急箱、生理用品等が備蓄されている。

防災倉庫内

(1)若松町会公民館防災倉庫見学 ④



防災井戸を3年前に設置。

井戸水は定期的に使用して、循環させている。

防災井戸

(1) 若松町会公民館防災倉庫見学 ⑤



男女別トイレ

広場に男女別トイレが設置されている。(車椅子利用可) スロープ・手すりが設置。異常時は警報ランプが光り外部に異常を伝える。鍵は自動で、朝解除・夕方施錠される。

(1) 若松町会公民館防災倉庫見学 ⑥

【まとめ】

- 井戸は、停電時に活用できるよう、水を汲み上げ発電機等の準備が整っている。
- 年4回の備品点検をしている。
- 年2回の発電機操作を行い始動するか確認している。また祭り等にも利用している。
- 区長の他に防災担当者がいる。
- 独居老人の把握はしているが、災害時の対応はまだ十分ではない。

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ①

(人口約2,000人 約930世帯)

特に広場という場所はありませんでしたが、きれいに整備された会館があり駐車場も完備されている。

道路向いにある旧公民館は、今も利用出来るようになっている。

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ②

The image shows a printed inventory list titled '非常用備品リスト' (Disaster Relief Supply List). It is organized into several columns and rows, detailing various supplies such as water, food, and medical supplies. At the bottom right of the list, the total quantity is noted as '総数量 2,096 箱' (Total Quantity 2,096 boxes).

備品管理簿

- ・災害時に使用できる井戸が用意されており災害時は滅菌機を通した水が出るようになっている。
- ・普段は市の水道を利用している。
- ・井戸と発電機は別の場所にあり既に配線されておりコンセントを差し込むだけで済む。また蛇口を多くして災害時に多くの人に対応できるようにしている。

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ③



災害時協力井戸



滅菌器を設置
(生活用水として活用可能)

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ④



食料品の保管

・防災倉庫は何箇所も分かれており、食料品は公民館内の倉庫に、災害時に使用するものは外の倉庫にと区別している。

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ⑤



・簡易トイレも準備されている。

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ⑥



公民館外側に設置されている防災倉庫・シャワー室・お風呂場

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ⑦



桜ヶ丘町防災センターと防災倉庫
(旧公民館)

(2)桜ヶ丘町公民館防災倉庫見学 ⑧

【まとめ】

- 男子、女子用のシャワー室、風呂場が設置されている。
公民館の主要部分と導線を分けてプライバシーに配慮
- 発電機はインバーターであり電圧も安定しており携帯電話の充電も可能であり良好である。
- 旧公民館は今、「桜ヶ丘町防災センター」として活用。
災害時には避難者を収容できる。
- 区長の他に防災担当者あり、協力して活動している。
- 防災訓練は年2回実施している。

(3)小岩田東二丁目公民館 児童遊園地 防災倉庫見学 ①

(人口約700人 約240世帯)

旧公民会館敷地を児童遊園地として活用。広い芝生広場があり、そこに防災倉庫が設置されている。また、現公民館がある広場にも防災倉庫が設置されている。

2か所の防災倉庫を見学する。

(3)小岩田東二丁目公民館 児童遊園地 防災倉庫見学 ②



防災倉庫内の様子

- 発電機、汲み置き水、燃料、煮炊き道具、土のう袋、折りたたみ式トイレ、ポンチョ等が保存されている。
- 簡易ソーラーパネル設置で夜間照明の確保。

(3)小岩田東二丁目公民館 児童遊園地 防災倉庫見学 ③



発電機の準備

- 発電機はインバーター用で安心して使用できるように管理されている。

(3)小岩田東二丁目公民館 児童遊園地 防災倉庫見学 ④



燃料の準備

- 普段、発電機の燃料は抜いてある。

(3)小岩田東二丁目公民館 児童遊園地 防災倉庫見学 ⑦

【まとめ-2】

- 区長自身防火管理者の資格を取得し住民のため活躍している。
- 区内の道路が狭く、緊急車輛の通行・災害時の避難経路に心配することがある。
- 他地区(能登半島)の被災地に義援金を送る活動もしている。

(4)防災倉庫見学から(総まとめ)

- ◎各行政区とも地域の環境、地形等を考慮して安心して生活出来るように工夫している。
- ◎各行政区とも防災倉庫内の収納品は十分に揃っている。
- ◎まだ区においてAEDは設置されていないようだ。
- ◎阪神・淡路大震災発生により被災地の人々の経験から防災用品の適切な準備と日々の備えの大切さ、何より大事なのは近隣のコミュニティーである。

第三部

みんなで作ろう防災グッズ

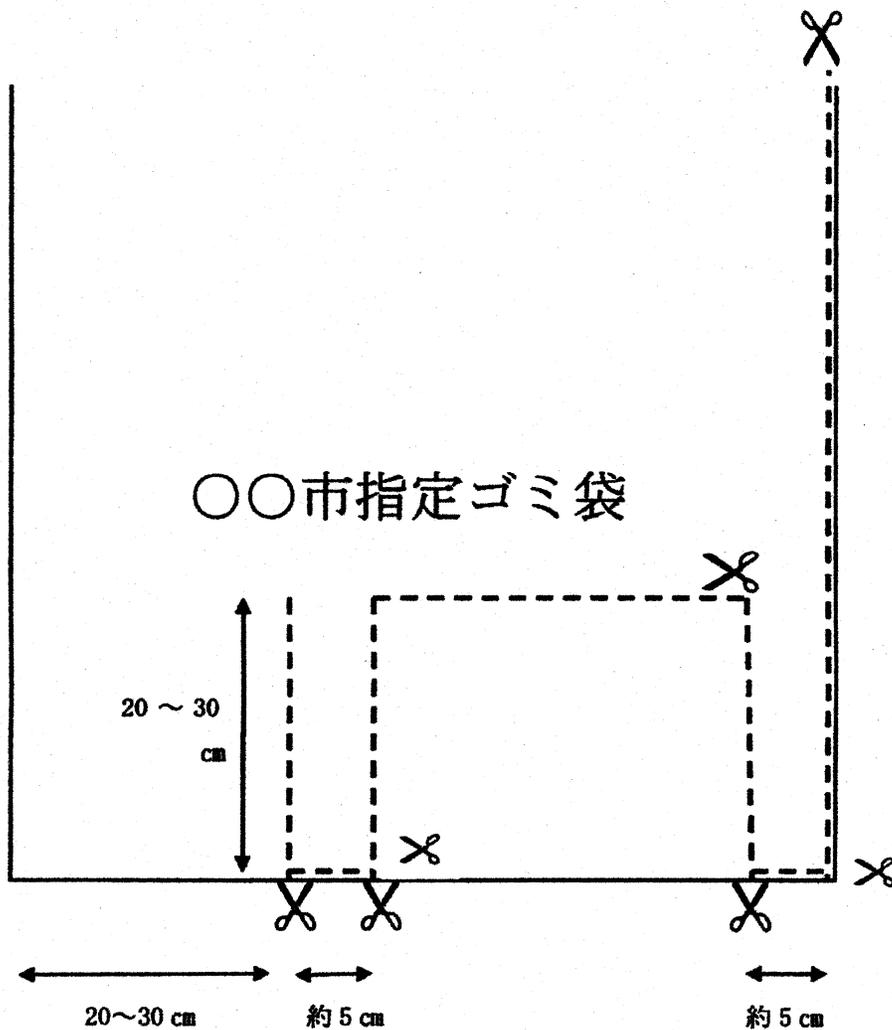
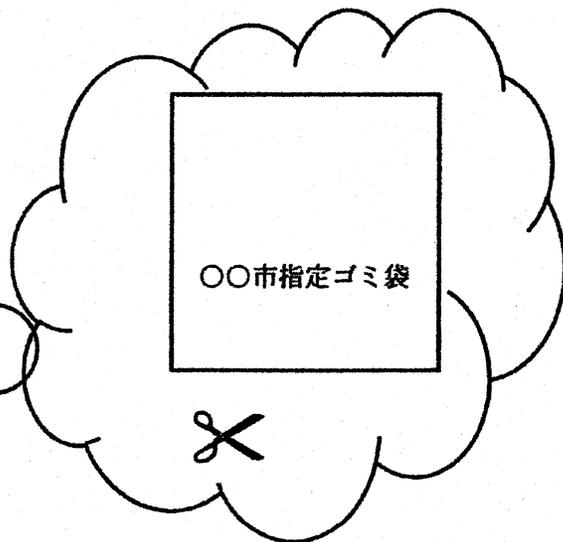
- ★ 雨合羽
- ★ エプロン
- ★ ポンチョ

担当講師 NPO法人茨城県防災士会
防災士 横山 松夫

防災グッズ

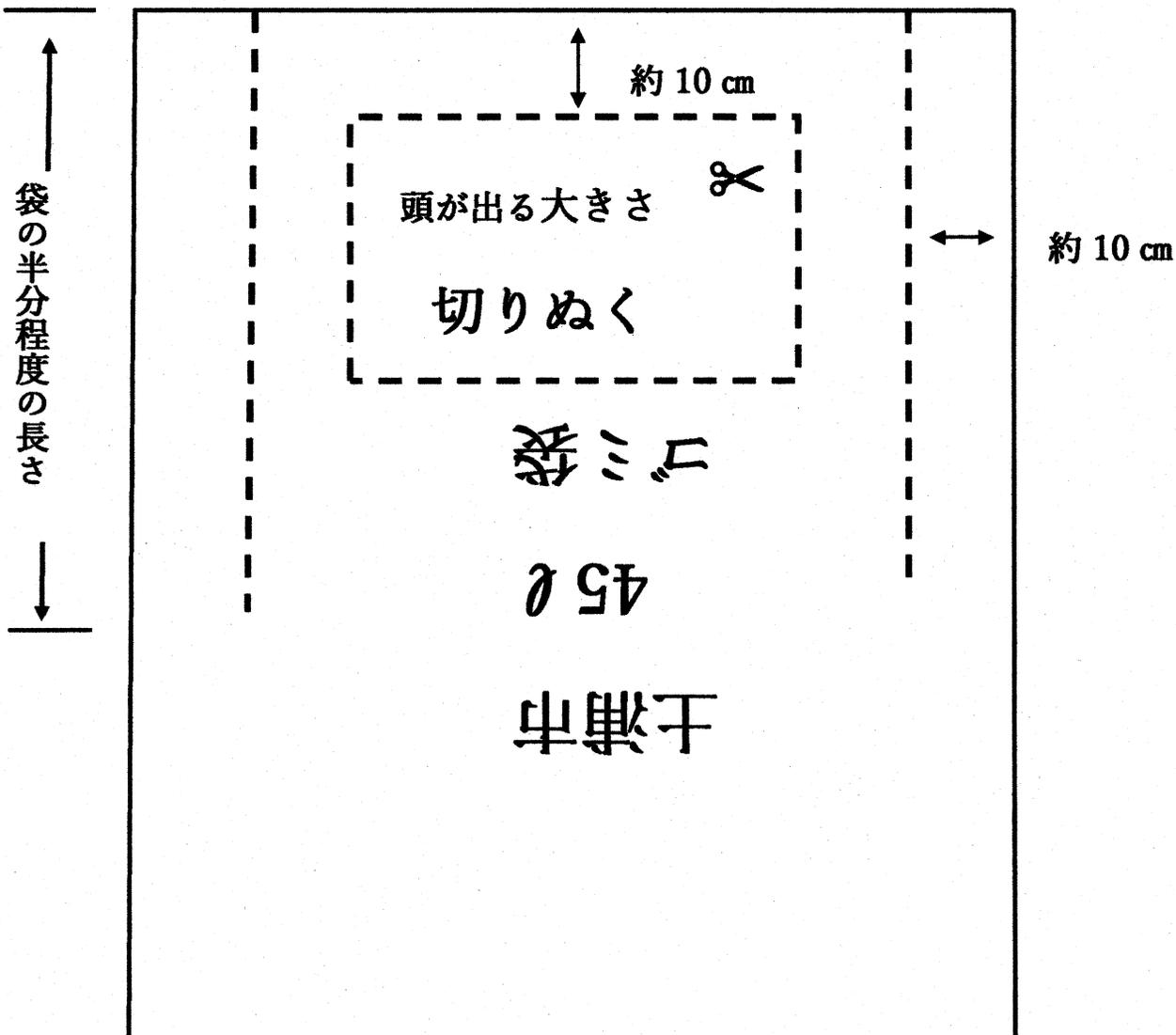
みんなで雨合羽を
つくってみよう！

用意するもの



※ ----- はハサミで切る

災害時のエプロン



袋の半分程度の長さ

約 10 cm

頭が出る大きさ

切りぬく

エプロン

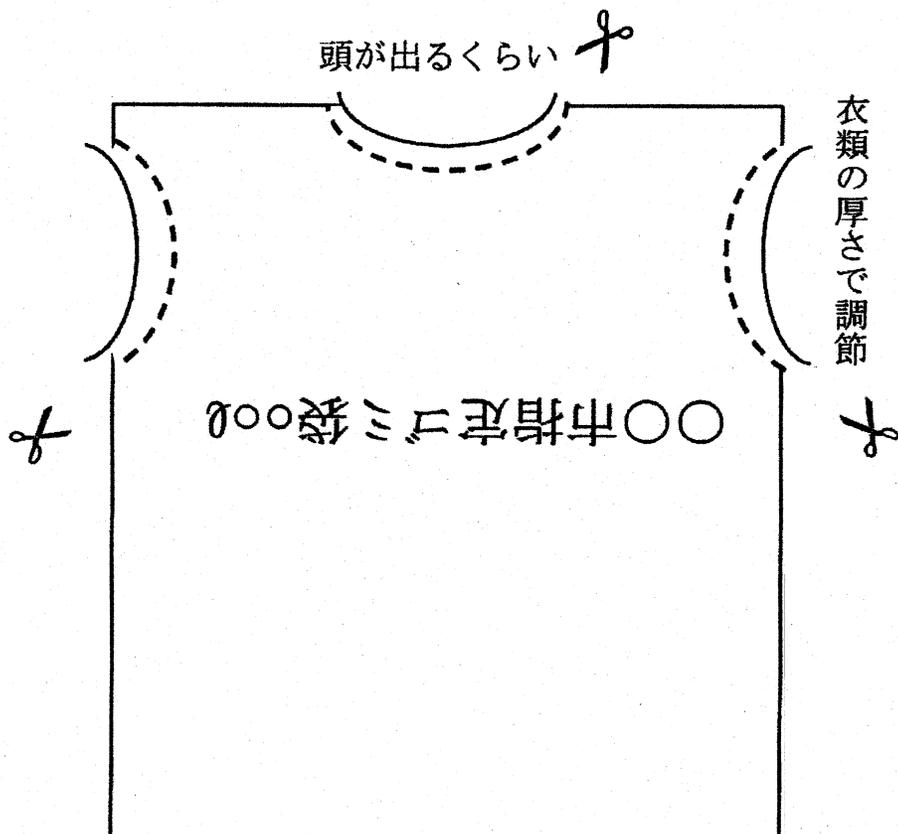
450

巾着

約 10 cm

いざという時 役立つ!! 防災グッズ

身近な日用品で簡単手作り 防寒着



- ◎ 用意するもの
- ・ゴミ袋45ℓ以上のもの
 - ・ハサミ